

第4回 今後の成田空港施設の機能強化に関する検討会 議事要旨

日時：令和8年7月6日（月）13:30～15:00

場所：合同庁舎第2号館 国際会議室

（議事要旨）

- 成田空港の「更なる機能強化」により年間発着容量が50万回となることを見据え、集約ワンターミナル方式による新たな旅客取扱施設の整備、国際航空物流機能を集約した新貨物地区の整備、空港駅及び空港周辺の鉄道施設の改良、都心・羽田空港方面との鉄道アクセス強化等について、具体的な整備の方向性、整備スケジュール等が示された最終とりまとめがなされた。
- 今後は、最終とりまとめを踏まえ、国土交通省、成田国際空港株式会社、関係事業者、関係自治体等において更なる具体的な取組を進めていくこととされた。

（委員等からの主な発言）

【総論】

- 本最終とりまとめを踏まえて、将来像を早期に明確にする必要。様々な課題が山積しているの関係者と連携して取り組む必要。
- 成田空港に対し積極的な計画を立てている本邦エアラインの期待に応える空港を目指すことが必要。
- 今後、30年、50年使っていく施設なので、大胆なアイデア、技術の導入などを目指して検討を続けていくべき。
- 施設整備に際しては、施設の共通化・共有化の視点と、利用者利便を踏まえたものにすべき。
- 多様な関係者が参画する国家プロジェクトとして、社会からの信頼を得られるガバナンスの確立、意思決定プロセスや役割分担の明確化、国内外への分かりやすい情報発信が重要。
- DXによる運用データの収集・分析、これを運用改善につなげる仕組みを整えることが重要。
- 航空需要の変動、技術革新、地政学的リスクなど将来の不確実性を踏まえ、施設・運用の両面で柔軟性や拡張性を確保しながら具体化を進めるべき。
- 成田空港と周辺地域、さらには羽田空港との一体的運用は、航空ネットワークの拡充に加え、高付加価値産業の集積を促す可能性を有しており、地域だけでなく我が国全体にとって重要な戦略課題。その実現のためには関係者による投資のコミットメントが不可欠であり、国のリーダーシップのもと着実に進めてほしい。
- 今回のプロジェクト実現に当たっては大規模な国の支援措置が必要。

【旅客取扱施設】

- ワンターミナル構想は利用者利便性、快適性、定時性、効率性を高める重要な取組であり、航空会社と十分連携しながら最終形の確実な実現を目指すべき。
- 新駅から搭乗ゲートまでの旅客動線について、距離・所要時間短縮の視点が重要。

- 鉄道駅とターミナルの間については、最短という観点のみならず、その間に賑わいをいかに創り出せるかという視点も重要。
- 滑走路整備等による容量拡大が先行することを想定し、新ターミナル供用開始までの間は、既存施設の延命化・機能強化も必要であり、移行期を見据えた全体計画を早期に示すべき。

【貨物取扱施設】

- 貨物取扱施設については、旅客ターミナルと新貨物地区との連携による世界最高水準の物流の速達性・効率性実現に向けて、NAAのリーダーシップ、国の支援が不可欠。
- 新貨物地区への移転プロセスや施設整備のロードマップについて、関係事業者が共通認識を持てるよう早期に具体化すべき。
- ハード整備だけでなく、データ連携や自動搬送、自動化・省人化など次世代型の貨物オペレーションを構築し、世界水準の物流競争力を確立すべき。
- 新貨物地区の整備と隣接地域との一体的な運用の実現は、物流機能の効率性・生産性の向上や新たな貨物取扱需要の創出につながり、成田空港の物流拠点機能強化において極めて重要。
- 空港隣接地との一体的運用や圏央道等広域交通ネットワークの整備、人材確保策が不可欠。
- 道路整備は物流の観点において非常に重要な役割を果たすので、今後の整備の推進に期待。

【鉄道施設】

- 鉄道アクセスの充実、利用者の利便性向上のためには極めて重要な要素。
- 成田空港が国際ハブ空港としての機能を発揮するためには、ターミナル整備とあわせた鉄道アクセスの強化が極めて重要。
- 輸送力増強と速達性向上の実現には、「空港駅整備」「単線区間の複線化」「新線整備」を一体的に整備することが必要。
- 鉄道施設の改良については、資金面での目処が付き、実現可能であることが必要。最終とりまとめ案はこれらを念頭に関係者の協議の上でまとめたもの。
- 鉄道施設の整備には多額の投資が必要。そのため、実現可能な資金スキームや費用負担の枠組みの構築、事業実施主体の体制強化、利子補給制度を含む支援制度の充実や、国、NAA、鉄道事業者、自治体等による緊密な連携が不可欠。
- 今後、事業の早期実現に向けて施工内容や技術的課題等が精査され、事業費の見通しが立てられた上で、事業スキーム等について関係者間で協議が行われるものと認識。沿線地域の発展等への寄与を含む地域への裨益についても十分考慮することが必要。

【都心乗入れ】

- 成田空港がグローバルハブ空港としての役割をより一層発揮するため、具体的な鉄道アクセス充実の方策が示されたことは、都心や地方送客拠点へのアクセス強化の観点から大変意義がある。
- 品川・羽田空港を含む都心方面へのアクセス強化は、首都圏空港全体の国際競争力強化の観点から極めて重要。

- 成田空港と東京駅、品川駅、羽田空港を結ぶアクセスについては、都心部の線路容量確保も重要な課題。また、将来のサービスレベルについて目標を明確にして必要な施策を進めるべき
- 押上駅以南への乗入れは、技術面・運用面で様々な課題があるほか、各鉄道事業者における経営面への影響について十分な検証が必要。関係者と緊密に連携して課題解決を図る必要。
- 東京圏の国際競争力強化に向けては、成田空港と羽田空港の連携強化が重要であり、成田空港への鉄道アクセスについても、国土交通省の航空・鉄道両部局が連携し、航空会社や鉄道事業者等との十分な意見交換を行いながら検討を進めるべき。